

日本における宗教の経済的選好への影響： プライミング法を用いた定量分析

小西 賢吾^{*}、石野 卓也[†]、枝村 祥平[‡]、桑野 萌[§]、花田 真一^{**}

概要：

本研究では、日本において宗教への信仰が経済的選好に与える影響を定量分析から明らかにする。そのために、アイデンティティーの経済学における理論モデルから、宗教による規範意識が経済的選好にどのように影響を与えるのかを考え、プライミング法を用いることで外生的な規範意識の変化がどのような影響をもたらすのかを議論した。次に、日本における宗教観や仏教やキリスト教の影響を理論的に導くにあたっては、文化人類学や宗教学、哲学などの観点からも学際的に考察を行った。最後に全国から抽出した 500 名を対象として Web 調査を行った。対象者をランダムに処置群と対象群に分け、処置群については日本人の宗教観に関するプライミングをかけた。この処置群と対照群において、信仰している宗教がある人に限定して、その経済的選好を比較した。その結果、プライミング操作を受けた処置群においては、時間選好率が有意に低くなっていた。

^{*} 京都大学 人と社会の未来研究院 講師

[†] 金沢星稜大学 経済学部 教授 ishino@seiryu-u.ac.jp (責任著者)

[‡] 明治大学 経営学部 教授

[§] 金沢星稜大学 人文学部 准教授

^{**} 弘前大学 人文社会科学部 准教授